

ごあいさつ

公益財団法人常陽藝文センターでは郷土作家展シリーズ第260回として、「どこでもない場所 程塚敏明展」を開催いたします。

虫や鯨などの生き物が取り込まれた不思議な建物、足場の組まれた飛行機の背後に広がる広々とした空、どうやって作られたのか何のためにあるのかわからない巨大な建造物がそびえ建つ大地。日本画家・程塚敏明さんの描く世界は、観る者からそれぞれの物語を引き出します。

程塚さんは子供の頃から絵を描いたり物作りをしたりして育ち、筑波大学に進んで本格的に日本画を学び始めました。自然の中にある人工的なものに惹かれて風景画を描きながら、次第に写生した建物を画面の中で古びさせ、さらに虫と組み合わせて架空の世界を構築するようになります。映画などの影響を受けたこの頃の作品は、舞台装置を思わせるシンメトリックな構図で描いていましたが、その後、建物の「向こう側の空間」を意識し始めた程塚さんは舞台を空へと移します。

空が主役になってから程塚さんは「裏彩色」を取り入れるようになりました。絹や薄い和紙の裏から彩色を施すこの技法は、古くから仏画などに用いられていました。程塚さんは厚さのある麻紙と呼ばれる和紙の裏側から染料系の顔料で着色し、その際に通常はにじみ止めとして全体に塗るドーサを部分的に用いて着色する作業を繰り返すことによって、複雑で軽やかな雲の描写を実現しています。

空を主体にした作品舞台は近年広い大地に移り、行ったことがないのに懐かしい、夢に現れるような「どこでもない場所」へと誘い込むのです。

今展では程塚さんの創画展出品作を中心に、優品17点を二期に分けて展示します。

公益財団法人常陽藝文センター

出品目録

前期

作品名	制作年	サイズ(cm)	出品展
正夢	平成17年	116.7×116.7	第16回龍桜日本画大賞展
未来	平成18年	116.7×116.7	第32回東京春季創画展
夏がとまる	平成18年	181.8×227.3	第33回創画展
黎明	平成18年	116.7×91.0	第41回茨城県芸術祭美術展覧会
夜想	平成19年	116.7×116.7	第33回東京春季創画展
翅の下	平成19年	116.7×91.0	第42回茨城県芸術祭美術展覧会
ハニーダンス	平成19年	60.6×72.7	
森羅	平成20年	181.8×227.3	第14回うしく現代美術展
光景	平成20年	116.7×80.3	第33回東京春季創画展

後期

sign	平成22年	162.0×130.3	第37回創画展
High Moon	平成25年	181.8×181.8	第40回創画展
Fly Away	平成27年	136.3×227.3	第6回日経日本画大賞展
Departure	平成27年	136.3×227.3	第6回日経日本画大賞展
インビジブル	平成30年	91.0×72.7	第44回東京春季創画展
Long Way Home	平成30年	162.0×130.3	第45回創画展
After the Rain	平成30年	162.0×114.5	第45回創画展
続く道	平成31年	65.2×53.0	第45回東京春季創画展



「どこでもない場所」とは自身の記憶やイメージの断片を、一体的な風景として表現したものです。未来の景色なのか遠い昔の場所なのか…絵の中を彷徨いながらも実感のある空間を掴みたいと願っています。これからも和紙に滲む色彩に導かれ、空間の広がりやとイリュージョンを追い続けていきます。

程塚 敏明

略年譜

昭和40年 千葉県生まれ

63年 筑波大学芸術専門学群美術専攻卒業

平成元年 第15回東京春季創画展初入選

第16回創画展初入選

2年 筑波大学大学院芸術研究科美術専攻修了

16年 第10回うしく現代美術展に出品(以後毎年出品)

19年 第5回記念現代茨城作家美術展(茨城県近代美術館)出品(以後毎回出品)

20年 第35回東京春季創画展にて春季展賞受賞(26年にも)

22年 第37回創画展にて奨励賞受賞

24年 第39回創画展にて創画会賞受賞(26年、30年にも)

27年 公募団体ベストセレクション美術2015(東京都美術館)出品

第6回東山魁夷記念日経日本画大賞展(上野の森美術館)入選

現在 創画会会員、茨城県美術展覧会会員、筑波大学芸術系准教授。つくば市在住。



「夏がとまる」